

音楽と共にあった人生

中嶋嶺雄先生を悼む

大八木敦彦



おおよぎ・あつひこ 60年、福島県生まれ。秋田公立美術工芸短大准教授(英文学)。詩集「雪原」「遠い海」「無音歌」、翻訳「ンスフィールド詩集」、評論「病床の賢治」など。秋田市。

去る3月17日、国際教養大学学長の中嶋嶺雄先生の大学葬が同大で行われた。式の終わりに、参列者が献花をする会場で、バイオリンが奏でるパッヘルベルのカノンが流れた。それは、昨年末に中嶋先生が学生たちと合奏した際の録音であった。中嶋先生は学者としても、教育者としても他の追随を許さない活躍をされたが、その人生を根幹から支えていたのは常に音楽だったことを思い起こさせる場面だった。

度かお会いしたが、私は音楽の話しかした記憶がない。それほど、仕事を離れている時の中嶋先生は、音楽への情熱を強く感じさせた。中嶋先生は心底では音楽家になりたかったのではないかと、私は今でも思っている。長野県の松本市に生まれた中嶋先生は、スズキ・メソッドで知られる鈴木慎一が設立した松本音楽院の第一期生としてバイオリンを習い始めた。音楽院は、門下から豊田耕児、江藤俊哉、渡辺玲子ら世界的なバイオリニストを輩出している。けれども、スズキ・メソッドという幼児音楽教育は、いわゆる英才教育ではなく、演奏家を育てるためのものではない。

実際、鈴木慎一は幼児からの教育で、誰もがバイオリンを弾けるようになることを証明した。その中に、たまたま「演奏家としての」天賦の才に恵まれた者がいれば、バイオリニストとして活躍することもできる。であり、才能と天分を混同してはならない。それは、日本人であれば皆、日本語は使えるが、誰もが作家や詩人になれるわけではない。鈴木慎一は幼児からの教育で、誰もがバイオリンを弾けるようになることを証明した。その中に、たまたま「演奏家としての」天賦の才に恵まれた者がいれば、バイオリニストとして活躍することもできる。であり、才能と天分を混同してはならない。それは、日本人であれば皆、日本語は使えるが、誰もが作家や詩人になれるわけではない。

中嶋先生は、松本音楽院を母体とする才能教育研究会の会長も務め、外国語教育についても音楽教育と同等に考えていた。つまり、人間が等しく外国語を習得できるなら、外国語も習得できるはずである、と。そのために必要なのが「反復」と「暗記」である。これは音楽の練習と同じ方法なのだ。ここで忘れてならないのは、スズキ・メソッドは単に楽器の演奏だけを目標にしているのではないことだ。演奏することによって、美しさを愛し美しさを生み出す精神を身に付け、音楽を心の糧として生きる力を育てることであった。中嶋先生自身が音楽によって生きる力を得ていたことは、先に挙げた著書のタイトルが示す通りである。

中嶋先生は高校生の時、生家の菓屋が破産して、家屋敷すべりて人に渡ったが、バイオリンだけは手放さなかった。大学生だった60年安保闘争の時代に、学生運動の先頭に立ちながらも、アマチュア・オーケストラでコンサートマスターを務め続けていた。

授業も充実しており、英語と同時に音楽というもう一つの世界共通語を学ぶ大学でもある。一方で、単位認定が厳しく、卒業率が全国一低く50%を切るという現状は、過酷とも思われるかもしれない。けれども、その甘やかさない厳しさは、裏を返せば、「やれば必ずできる」と学生の才能を信じればその教育法であり、スズキ・メソッドの青年版とも言える。

4年前、中嶋先生は音楽をテーマに講演会を開いたことがある。その感想を私が本欄に寄せたところ、中嶋先生から手紙と「音楽は生きる力」と題された著書が届いた。手紙には「小生と音楽とについて、このように正しく書いていただいたことは生涯でも初めてで、うれしく思います」とあった。

中嶋先生は社会学を専門とする中国研究の大家であるが、同時に音楽をこよなく愛し、特にバイオリンを「心の糧」としていた。その後も中嶋先生とは何

持っており、教育はそれを伸ばすためのもの。したがって、子どもに何かできないことがあるば、それは才能がないからではなく、教育が間違っているから

中嶋先生が自らの理想の大学として創り上げた国際教養大学は、音楽に関する

一昨年であったか、私の家で古いバイオリンを、中嶋先生にお見せしたことがある。それは私の祖母が弾いていた昭和初期の鈴木バイオリンで、中嶋先生は思いがけず旧知の友と再会したように見つけていた。その日は、元国連事務次長の明石康さんも一緒にいたが、中嶋先生

は、やたら調弦をすると、その場でパッハのプーレを弾き始めた。さすがの明石さんも呆気にとられていたが、いったん弾き始めると、中嶋先生は、もはや音楽のこと以外一切視界に入っていないようであった。あの時のように今も中嶋先生は天上で、バイオリンを奏で続けておられるに違いない。

文

化



演奏会に臨む中嶋先生(左)。バイオリニストの渡辺玲子さん(右)、ピアニストの坂野伊都子さんと共演した2009年6月13日、国際教養大学講義棟